

Ⅲ 緊急（アナフィラキシー発症）時の対応

緊急時に備えて、「緊急時個別対応カード（参考様式5）」を作成します。また、緊急時の対応については「緊急時対応経過記録表（参考様式6）」に記録します。

1 緊急時の備え

緊急時の対応に備えて大事なものは、児童施設・学校職員の当事者意識と、危機管理能力です。日頃から以下の準備を行い、「緊急時対応個別カード（参考様式5）」を作成しておく必要があります。

(1) 職員の役割分担

緊急時に各職員が具体的に何をするか決めます。

→ 緊急時対応のフローチャート（P14）を参照

〔例 児童施設・学校における役割分担モデル〕

職員	主な役割
管理者（園長、校長など）	・職員へ対応の指示
看護職員（看護師、養護教諭など）	・症状対応と状態観察及び記録 ・主治医、園医、校医への連絡
担任など	・保護者への連絡 ・救急車の要請（119番通報） ・看護師などの補助 ・周囲の子供への対応

役割分担のポイント

園長、校長など管理者は状況を把握、分析して対応を決定します。

子供のケアをする者、救急車の要請（119番通報）をする者など少なくとも2名から3名程度で対応することが必要です。

(2) 連絡先の確認

園長、校長、保護者及び医療機関などの電話番号を控えておきましょう。

→ 「緊急時個別対応カード（参考様式5）」に記載

(3) 緊急時に搬送できる医療機関の確保

主治医のいる医療機関に搬送できる場合

日頃から主治医や病院のケースワーカーと、どのような症状の時に搬送すべきかなどの情報を共有し確認しておくことが大切です。

→ 「緊急時個別対応カード（参考様式5）」に記載

主治医のいる医療機関に搬送できない場合

① 主治医に、緊急時に搬送できる医療機関を紹介してもらい、あらかじめ紹介状を書いてもらうよう、保護者へ助言します。また、保護者が紹介してもらった医療機関を事前に受診し、緊急時の対応等を依頼するよう助言します。

② 児童施設・学校職員が、「東京都医療機関案内サービス（ひまわり）」（<http://www.himawari.metro.tokyo.jp/qq/qq13tomnlt.asp>）などから、地域の小児救急医療機関やアレルギー専門医がいる医療機関情報をまとめておきましょう。

【医療機関情報のまとめ方(例)】

(平成19年度東京都子どもの食物アレルギーに係る緊急時対応等モデル事業より)

〇〇区 子どもの食物アレルギー対応の医療機関マップ										
No	※ 医療機関名	所在地	電話番号	相談	検査			※※ 負荷検査	エビベン の処方	※※ 緊急時対応
					一般血液 検査	抗体検査	皮膚テスト			
1	東京〇〇病院	〇〇区-〇-〇	03-〇〇〇〇-〇〇〇〇	○	○	○	○	○	○	○
2	東京〇〇クリニック	〇〇区-〇-〇	03-〇〇〇〇-〇〇〇〇		○	○				
3	東京〇〇医院	〇〇区-〇-〇	03-〇〇〇〇-〇〇〇〇		○	○				

※緊急時対応（アナフィラキシーショックを起こした時の緊急時の対応、アドレナリン注射等の対応を含む）：児童施設・学校で事前に受診の方法等について相談しておくこと。また緊急時には連絡を入れ、医師と相談後、受診すること。

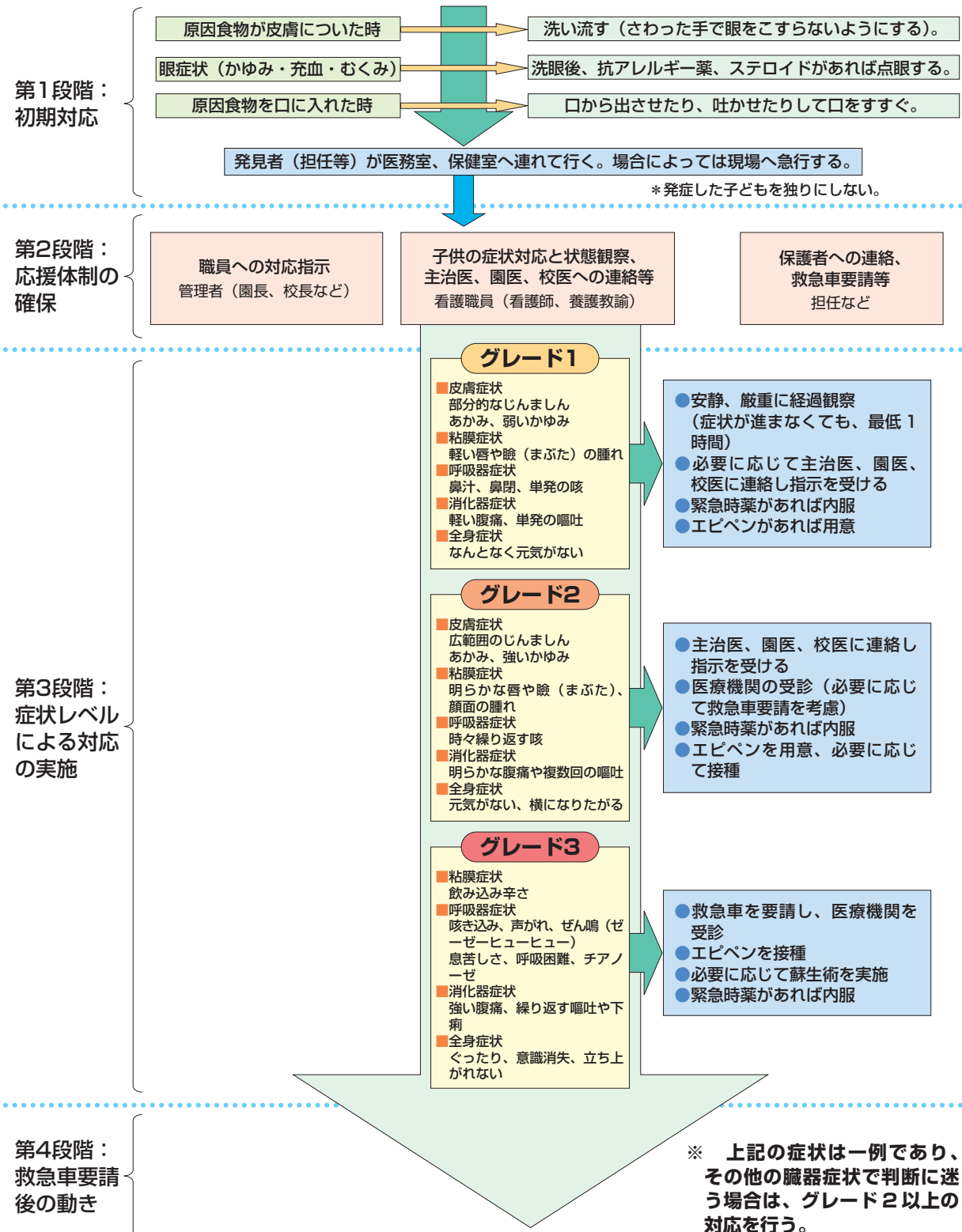
救急医療機関（診療科目に小児科がある機関）一覧

No	医療機関名	所在地	電話番号
1	〇〇大学医学部附属病院	〇〇区-〇-〇	03-〇〇〇〇-〇〇〇〇
3	〇〇病院	〇〇区-〇-〇	03-〇〇〇〇-〇〇〇〇

Ⅲ 緊急（アナフィラキシー発症）時の対応

2 緊急時対応

緊急時対応のフローチャート



III

緊急（アナフィラキシー発症）時の対応

(1) 緊急時対応の流れ

(P14の緊急時対応のフローチャートに沿って)

ア 第1段階：初期対応

誤食を発見したり、アナフィラキシー症状が現われ始めた子供を発見した者は、誤食してから間もない場合には、口に入れたものを吐き出させる初期対応をすぐに実施しましょう。また、原因食物に触れて皮膚や粘膜症状があらわれている時は、速やかに大量の流水で原因食物を洗い流しましょう。

イ 第2段階：応援体制の確保

誤食したり、アレルギー症状を発症した子供を速やかに医務室や保健室に連れて行き、ほかの職員に応援を求めましょう。また、「緊急時個別対応カード（参考様式5）」及び「緊急時対応経過記録表（参考様式6）」を取り出しておきましょう。

ウ 第3段階：症状レベルによる対応の実施

緊急時対応のフローチャートのグレード1からグレード3までの症状に沿った対応を実施し、「緊急時対応経過記録表（参考様式6）」に記録しましょう。

グレード1

アレルギー症状としては軽症といえ、経過中に症状が速やかに消失するのであれば、慌てて医療機関を受診しないで済むかもしれません。しかし、症状が進行する可能性があるため、最低1時間は経過観察を行いましょう。理想的には4時間の経過観察が必要です。

ただし、過去にアナフィラキシーショックを経験している子供の場合はほかの子供よりリスクが高いため、症状の軽重に関わらず、速やかに医療機関を受診しましょう。

グレード2

じんましんが広範囲にみられ、それに伴ないかゆみがつよくなったり、咳がひどくなってきたりします。全身的にも明らかに元気がないなどの症状の悪化がみられたら、主治医や園医、校医と連絡をとりながら、基本的には医療機関へ搬送すべきです。必要時、救急車を要請しましょう。

グレード3

この段階は、いわゆるアナフィラキシーショックもしくはそれに近い状態にあります。様々な症状（呼吸困難や強い腹痛、繰り返す嘔吐など）が強く起こり、全身状態も悪化します。すぐに救急車を呼ぶと同時に、エピペンが手元があれば速やかに接種しましょう。アナフィラキシーショックで生命が危険な状態にある子供が自ら接種できない場合、学校教職員は、本人に代わって接種することが必要な場合もあります。

※ 誤食時に主治医から内服するように指示されている薬剤（抗ヒスタミン薬やステロイド薬）はグレード1から必要に応じて内服しましょう。しかし、内服薬は即効性に欠け、また治療効果も症状が重ければ限定的なので注意しましょう。グレード3では即効性のあるエピペンが唯一の症状改善効果を期待出来る薬剤と言えます。

救急車の要請（119番通報）のポイント

- ① まず、「救急です」、「食物アレルギーによるアナフィラキシー患者の搬送依頼です」と告げましょう。
- ② そして、「いつ、どこで、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」を説明しましょう。
 - ・いつ …食事開始後、○分経過後
 - ・どこで…○○保育園、○○幼稚園、○○学校にて
 - ・だれが…○才の児童が
 - ・どうしたのか、どのような状態か
…アナフィラキシー（全身じんましん、ぜん息様の呼吸音があるなど）である
 - ・エピペンを処方されて持参又は保管している場合は、その旨と接種の有無を必ず伝える
- ③ 連絡した者の氏名、児童施設・学校の所在地、連絡先、近くの目標となるものを伝えましょう。
- ④ 救急車が来るまでの応急手当の方法を聞きましょう。

工 第4段階：救急車要請後の動き

① 救急車を要請後の対応

連絡体制

発症した子供の状態の確認や応急手当の指示をするため、救急隊員より児童施設・学校に、再度連絡が入る場合があります。その際、子供の状態を把握している職員が、救急隊員からの電話に必ず対応できるよう、児童施設・学校内での連絡体制の確保、連携が大切です。また、救急隊到着後、現場へ誘導する職員も必要です。

心肺停止状態になったときの救命処置

P18からP19までの「AEDを使用した心肺蘇生」を参照

② 救急車が着いたら

- ・「緊急時対応経過記録表（参考様式6）」を活用して、子供の状態の説明、どのような応急手当をしたかを救急隊員に説明します。
- ・エピペンがその場がない（エピペンを処方されていない、または持参や保管していない）子供の場合、緊急時に搬送できる医療機関が決まっていれば、その情報も伝えます。
- ・エピペンがその場にあり（エピペンを処方されて持参や保管している）、接種した、または接種の必要がある子供の場合は、救急隊員が、全身の管理ができる救命救急センター等の医療機関に搬送することとなります。

③ 持参するものをまとめ、事情がわかる職員が救急車に同乗しましょう。

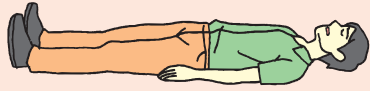
- ・救急搬送する子供の保険証の写し、財布、使用したエピペンなどを持参し、救急車に同乗しましょう。

参 考

『救急活動の現況 平成20年（東京消防庁 発行）』によると、救急隊が出場してから現場に到着するまでの時間は平均6分5秒であり、救急隊が出場してから病院へ到着するまでの時間は、平均35分34秒となっています。

3 AEDを使用した心肺蘇生

倒れている人



周囲の安全確認

反応の確認
肩を叩きながら
呼びかける



わかりますか

傷病者の訴えを聞き
必要な応急手当

反応あり

反応なし

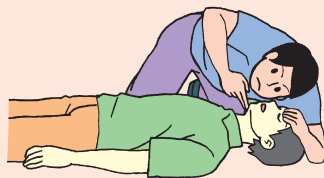
大声で助けを求め
119番通報
AEDの搬送依頼



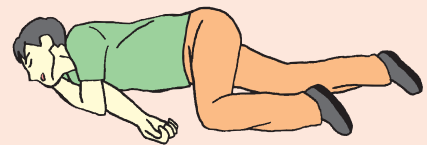
誰か来てください!!
人が倒れています
あなたは119番通報してください
あなたはAEDを持ってきてください

普段どおりの
息あり

気道確保
呼吸の確認



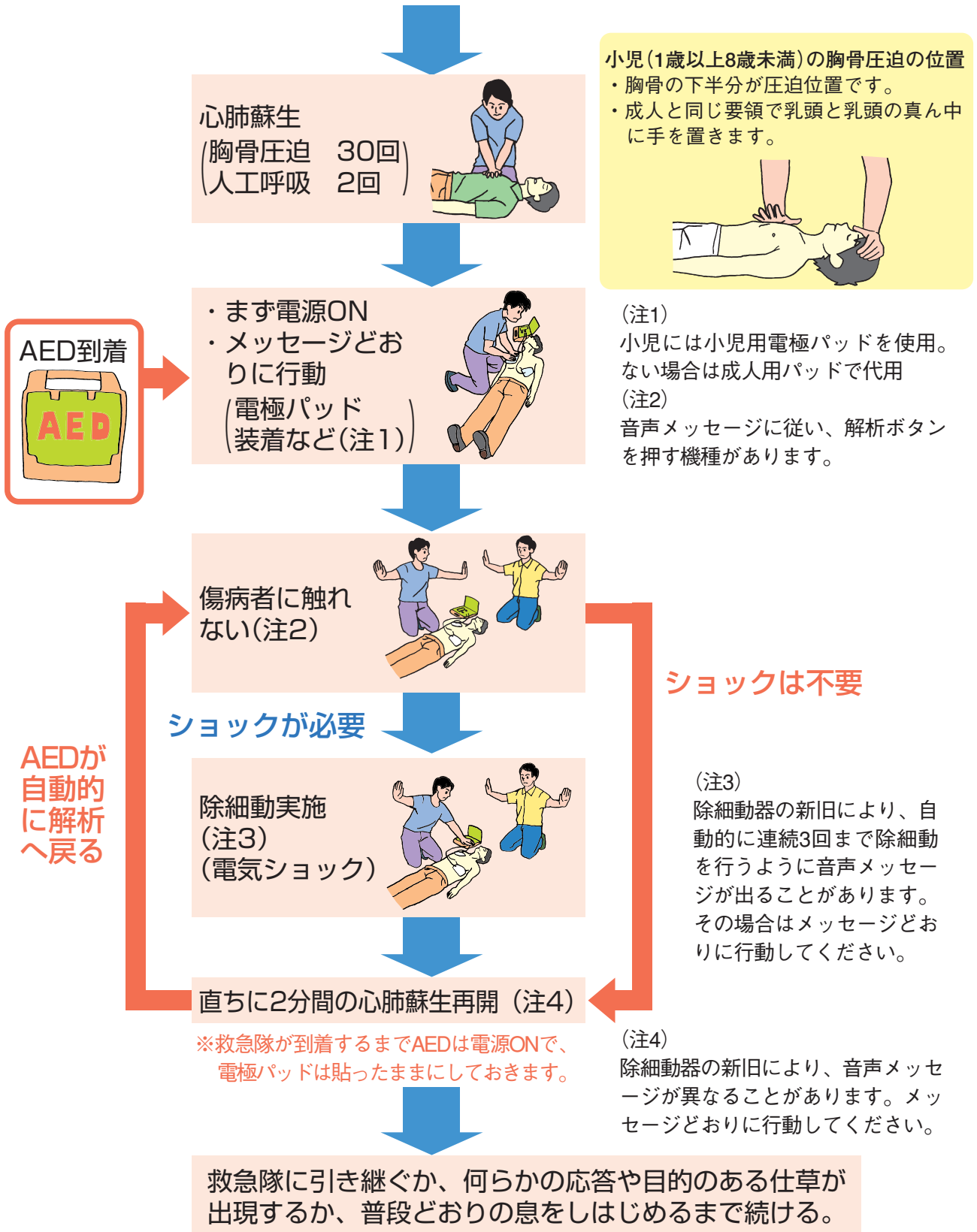
体を横に向け
回復体位（側臥位）



普段どおりの息なし

人工呼吸2回

※人工呼吸がためらわれたり、遅れるようなら人工呼吸を省略して次に進んでください。



『身につけよう応急手当上級救命講習テキスト2005ガイドライン対応』（財団法人東京救急協会発行）より引用
けが人や急病人が発生した場合、その場に居合わせた人が応急手当を速やかに行えば、救命効果が上がり、治療の経過にも良い影響を与えます。

そのためにも日頃から応急手当に関する知識と技術を身に付けておくことが大切です。

各種講習会については、最寄りの消防署又は財団法人東京救急協会（03-5276-0995）にお問い合わせください。